

(2) つらさと支障の寒暖計 (DIT : Distress and Impact Thermometer)

がん患者のつらさをスクリーニングするための自己記入式質問票である。

(3) 日本語版 MD アンダーソンがんセンター版症状評価法

(MDASI : M. D. Anderson Symptom Inventory)

(4) 精神保健専門家受診希望の有無に関する質問

(5) CAT 作成のための予備尺度

(6) WHO-統合国際診断面接 (CIDI : Component International Diagnostic Interview)

WHO が開発した一般住民を対象とした精神障害に関する疫学研究を実施する構造化面接である。従来の紙面調査法 (PAPI : paper and pencil) に加え、電子化されたコンピューター版 (CAPI : Computer Assisted Personal Interviewing) がり、精神保健医療にたずさわったことのないスタッフでも実施が可能である。今回は CAPI の気分障害モジュール (大うつ病性障害と気分変調性障害からなる) をがん患者向けに修正し、大うつ病および小うつ病性障害の診断を可能となる変法を採用する。

【症例数】

(1) 目標症例数 1200 例。

【研究期間】

4 年間

【評価項目】

1. 主要評価項目

「つらさと支障の寒暖計」の信頼性・妥当性

2. 副次評価項目

(1) 性別、PS の各 status、疼痛、嘔気、呼吸困難の有無によるカットオフ値への影響

(2) CAT 作成のための予備尺度の信頼性・妥当性

(倫理面への配慮)

本研究は疫学研究に関する倫理指針を遵守する。研究は、倫理審査委員会の承認を受けた後におこなう。登録に先立って、説明文書用いて研究についての説明を行った後、患者より文書にて同意を得る。

C. 研究結果

本研究のプロトコールを作成し、中央病院緩和医療科・精神腫瘍科と共同で、施設の倫理審査委員会に許可申請中である。

D. 考察

研究計画が倫理審査委員会を通過次第、実施に向けての体制を整える予定である。

E. 結論

がん患者における抑うつは高い有病率にも関わらず見過ごされやすく、専門的治療を受けている患者は限られている。我々は、これまでに抑うつに対するスクリーニングツール (つらさと支障の寒暖計) を開発し、入院患者に対するスクリーニング介入の有用性を示してきた。しかし、スクリーニングツールにおいては、サンプルバイアスの問題と、ゴールドスタンダードが臨床診断である問題が指摘されてきたため、今回多施設 (国立がん研究センター中央病院および東病院、岡山大学病院、東京大学医学部附属病院、名古屋市立大学病院) 共同研究を行い、大規模なサンプルを用いることによって、性能について再評価を行うことを計画した。研究計画を策定し施設の倫理審査委員会に申請中であり、承認を得次第実施する予定である。

F. 健康危険情報

特記すべきことなし。

G. 研究発表

論文発表

1. Shimizu, K., Ogawa, A., Uchitomi, Y., et al : Feasibility and usefulness of the 'Distress Screening Program in Ambulatory Care' in clinical oncology practice. *Psychooncology* 19: 718-25, 2010

2. Asai, M., Akechi, T., Ogawa, A., Shimizu, K., Uchitomi, Y., et al : Psychiatric disorders and stress factors experienced by staff members in cancer hospitals: a preliminary finding from psychiatric consultation service at National Cancer Center Hospitals in Japan.

- Palliat Support Care 8: 291-5, 2010
3. Ogawa, A., Shimizu, K., Uchitomi, Y., et al : Involvement of a psychiatric consultation service in a palliative care team at the Japanese cancer center hospital. Jpn J Clin Oncol 40: 1139-46, 2010
 4. 高橋真由美, 小川朝生, 内富庸介, 他: 【うつを診る】各領域におけるうつ病診療とその対策の実際 緩和ケア領域におけるうつ病. 総合臨床 59: 1224-1230, 2010
 5. 小川朝生: 精神科医への期待 いま進められている事業から. 精神神経学雑誌 112: 1010-1017, 2010
 6. 大谷恭平, 小川朝生, 内富庸介, 他: サバイバーにおける認知機能障害. 腫瘍内科 5: 202-210, 2010
 7. 小川朝生: 在宅ケア各論 第5回. 温第5号: 13-15, 2010
 8. 小川朝生: 【がんの告知と看護師の役割 看護師のコミュニケーション技術】医療者間のコミュニケーション. がん看護 15: 50-52, 2010
 9. 白井由紀, 小川朝生, 内富庸介, 他: がん治療中の患者の精神症状. エビデンスにもとづいたOncologyNursing 総集編: 163-167, 2010
 10. 白井由紀, 小川朝生 :がんチーム医療におけるコミュニケーション・スキル. Oncology Nursing 1: 22-25, 2010
- 学会研修セミナー, 愛知県名古屋市, 2010,
5. 小川朝生: 患者の意向に沿った治療を考える (意思決定能力), 第23回日本サイコオンコロジー学会, 愛知県名古屋市, 2010, JPOS シンポジウム 6
 6. 小川朝生: 緩和ケアチーム・フォーラム よりよい活動のためにー成熟期への道しるべー, 第15回日本緩和医療学会学術大会, 東京都千代田区, 2010, 職種別フォーラム4 座長
- H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)
1. 特許取得 なし。
 2. 実用新案登録 なし。
 3. その他 特記すべきことなし。

学会発表

1. 小川朝生: 精神科医への期待 いま進められている事業から, 第106回日本精神神経学会学術総会, 広島県広島市, 2010, シンポジウム 21
2. 鈴木真也, 小川朝生, 内富庸介, 他 : せん妄をきたしたがん患者における非定型抗精神病薬の高血糖, 第48回日本癌治療学会学術集会, 京都府京都市, 2010, 一般演題 (ポスター)
3. 小川朝生: がん患者におけるコンサルテーションの実際, 第23回日本総合病院精神医学会総会, 東京都千代田区, 2010, GHP 精神腫瘍学研修会
4. 小川朝生: 心理士のアセスメント・介入, 第23回日本サイコオンコロジー

(2) つらさと支障の寒暖計 (DIT : Distress and Impact Thermometer)

がん患者のつらさをスクリーニングするための自己記入式質問票である。

(3) 日本語版 MD アンダーソンがんセンター版症状評価法

(MDASI : M. D. Anderson Symptom Inventory)

(4) 精神保健専門家受診希望の有無に関する質問

(5) CAT 作成のための予備尺度

(6) WHO-統合国際診断面接 (CIDI : Component International Diagnostic Interview)

WHO が開発した一般住民を対象とした精神障害に関する疫学研究を実施する構造化面接である。従来の紙面調査法 (PAPI : paper and pencil) に加え、電子化されたコンピューター版 (CAPI : Computer Assisted Personal Interviewing) がり、精神保健医療にたずさわったことのないスタッフでも実施が可能である。今回は CAPI の気分障害モジュール (大うつ病性障害と気分変調性障害からなる) をがん患者向けに修正し、大うつ病および小うつ病性障害の診断を可能となる変法を採用する。

【症例数】

(1) 目標症例数 1200 例。

【研究期間】

4 年間

【評価項目】

1. 主要評価項目

「つらさと支障の寒暖計」の信頼性・妥当性

2. 副次評価項目

(1) 性別、PS の各 status、疼痛、嘔気、呼吸困難の有無によるカットオフ値への影響

(2) CAT 作成のための予備尺度の信頼性・妥当性

(倫理面への配慮)

本研究は疫学研究に関する倫理指針を遵守する。研究は、倫理審査委員会の承認を受けた後におこなう。登録に先立って、説明文書用いて研究についての説明を行った後、患者より文書にて同意を得る。

C. 研究結果

本研究のプロトコールを作成し、中央病院緩和医療科・精神腫瘍科と共同で、施設の倫理審査委員会に許可申請中である。

D. 考察

研究計画が倫理審査委員会を通過次第、実施に向けての体制を整える予定である。

E. 結論

がん患者における抑うつは高い有病率にも関わらず見過ごされやすく、専門的治療を受けている患者は限られている。我々は、これまでに抑うつに対するスクリーニングツール (つらさと支障の寒暖計) を開発し、入院患者に対するスクリーニング介入の有用性を示してきた。しかし、スクリーニングツールにおいては、サンプルバイアスの問題と、ゴールドスタンダードが臨床診断である問題が指摘されてきたため、今回多施設 (国立がん研究センター中央病院および東病院、岡山大学病院、東京大学医学部附属病院、名古屋市立大学病院) 共同研究を行い、大規模なサンプルを用いることによって、性能について再評価を行うことを計画した。研究計画を策定し施設の倫理審査委員会に申請中であり、承認を得次第実施する予定である。

F. 健康危険情報

特記すべきことなし。

G. 研究発表

論文発表

1. Shimizu, K., Ogawa, A., Uchitomi, Y., et al : Feasibility and usefulness of the 'Distress Screening Program in Ambulatory Care' in clinical oncology practice. *Psychooncology* 19: 718-25, 2010

2. Asai, M., Akechi, T., Ogawa, A., Shimizu, K., Uchitomi, Y., et al : Psychiatric disorders and stress factors experienced by staff members in cancer hospitals: a preliminary finding from psychiatric consultation service at National Cancer Center Hospitals in Japan.

- Palliat Support Care 8: 291-5, 2010
3. Ogawa, A., Shimizu, K., Uchitomi, Y., et al : Involvement of a psychiatric consultation service in a palliative care team at the Japanese cancer center hospital. Jpn J Clin Oncol 40: 1139-46, 2010
 4. 高橋真由美, 小川朝生, 内富庸介, 他: 【うつを診る】各領域におけるうつ病診療とその対策の実際 緩和ケア領域におけるうつ病. 総合臨床 59: 1224-1230, 2010
 5. 小川朝生: 精神科医への期待 いま進められている事業から. 精神神経学雑誌 112: 1010-1017, 2010
 6. 大谷恭平, 小川朝生, 内富庸介, 他: サバイバーにおける認知機能障害. 腫瘍内科 5: 202-210, 2010
 7. 小川朝生: 在宅ケア各論 第5回. 温第5号: 13-15, 2010
 8. 小川朝生: 【がんの告知と看護師の役割 看護師のコミュニケーション技術】医療者間のコミュニケーション. がん看護 15: 50-52, 2010
 9. 白井由紀, 小川朝生, 内富庸介, 他: がん治療中の患者の精神症状. エビデンスにもとづいたOncologyNursing 総集編: 163-167, 2010
 10. 白井由紀, 小川朝生 :がんチーム医療におけるコミュニケーション・スキル. Oncology Nursing 1: 22-25, 2010
- 学会研修セミナー, 愛知県名古屋市, 2010,
5. 小川朝生: 患者の意向に沿った治療を考える (意思決定能力), 第23回日本サイコオンコロジー学会, 愛知県名古屋市, 2010, JPOS シンポジウム6
 6. 小川朝生: 緩和ケアチーム・フォーラム よりよい活動のためにー成熟期への道しるべー, 第15回日本緩和医療学会学術大会, 東京都千代田区, 2010, 職種別フォーラム4 座長
- H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)
1. 特許取得 なし。
 2. 実用新案登録 なし。
 3. その他 特記すべきことなし。

学会発表

1. 小川朝生: 精神科医への期待 いま進められている事業から, 第106回日本精神神経学会学術総会, 広島県広島市, 2010, シンポジウム21
2. 鈴木真也, 小川朝生, 内富庸介, 他 : せん妄をきたしたがん患者における非定型抗精神病薬の高血糖, 第48回日本癌治療学会学術集会, 京都府京都市, 2010, 一般演題 (ポスター)
3. 小川朝生: がん患者におけるコンサルテーションの実際, 第23回日本総合病院精神医学会総会, 東京都千代田区, 2010, GHP 精神腫瘍学研修会
4. 小川朝生: 心理士のアセスメント・介入, 第23回日本サイコオンコロジー

Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧表

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍（外国語）

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
該当なし							

書籍（日本語）

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
明智龍男、内富庸介	がん患者の抑うつ症状緩和-最近の話題	樋口輝彦	別冊・医学のあゆみ 最新うつ病のすべて	医歯薬出版株式会社	東京	2010	160-164
内富庸介、他	悪性腫瘍	下田和孝	脳とこころのプライマリケア1うつと不安	株式会社シナジー	東京	2010	354-362
内富庸介	精神腫瘍学概論	大西秀樹	専門医のための精神科臨床リュミエール24	中山書店	東京	2010	2-12
藤森麻衣子、内富庸介	がん医療におけるコミュニケーションスキル	大西秀樹	専門医のための精神科臨床リュミエール24	中山書店	東京	2010	139-148
藤森麻衣子、内富庸介	Bad Newsの伝え方・予後の話し合い方		消化器Book01 胃癌を診る・治療する 早期発見から緩和ケア	株式会社羊土社	東京	2010	146-152
明智龍男	せん妄なのか、アカシジアなのか分からない時の対応	森田達也, 新城拓也, 林忍り子	緩和ケアのちょっとしたコツ	青海社	東京	2010	238-240
明智龍男	希死念慮・自殺	大西秀樹	専門医のための精神科臨床リュミエール24 サイコオンコロジー	中山書店	東京	2010	69-74
明智龍男	精神症状の基本	小川朝生, 内富庸介	これだけは知っておきたいがん医療における心のケア	創造出版	東京	2010	53-60
森田達也	13. 輸液・栄養補給 Q66 終末期の輸液の考え方を教えてください。	堀夏樹, 小澤桂子	一般病棟でできる緩和ケア Q&A改訂版	総合医学社	東京	2010	146-147
森田達也	18. 鎮静（セデーション） Q83鎮静とは何ですか？。	堀夏樹, 小澤桂子	一般病棟でできる緩和ケア Q&A改訂版	総合医学社	東京	2010	182-183
森田達也	18. 鎮静（セデーション） Q85鎮静に使われる薬剤の使い方を教えてください。	堀夏樹, 小澤桂子	一般病棟でできる緩和ケア Q&A改訂版	総合医学社	東京	2010	186-187

社団法人日本医師会 (監)		森田達也, 他	がん緩和ケア ガイドブック	青海社	東京	2010	
日本緩和医療学会 緩和 医療ガイド ライン作成 委員会		日本緩和医 療学会 緩 和医療ガイ ドライン作 成委員会	がん疼痛の薬 物療法に関 するガイドラ イン 2010年版	金原出版	東京	2010	
日本緩和医 療学会 緩和 医療ガイド ライン作成 委員会		日本緩和医 療学会 緩 和医療ガイ ドライン作 成委員会	苦痛緩和のた めの鎮静に関 するガイドラ イン 2010年 版	金原出版	東京	2010	
森田達也	IV. 緩和医療 1. 緩和医 療概論.	大西秀樹	専門医のため の精神科臨床 リュミエール 24 サイコオ ンコロジー	中山書店	東京	2010	150-163
小川朝生	心のケアの考え方 精神心理的苦痛のアセ スメント	小川朝生, 内富庸介	精神腫瘍学ポ ケットガイド これだけは知 っておきたい がん医療にお ける心のケア	創造出版	東京	2010	36-52
小川朝生	せん妄への対応	小川朝生, 内富庸介	精神腫瘍学ポ ケットガイド これだけは知 っておきたい がん医療にお ける心のケア	創造出版	東京	2010	61-80
小川朝生	認知症への対応	小川朝生, 内富庸介	精神腫瘍学ポ ケットガイド これだけは知 っておきたい がん医療にお ける心のケア	創造出版	東京	2010	81-90
小川朝生	コンサルテーションの 基本	大西秀樹	専門医のため の精神科臨床 リュミエール 24 サイコオ ンコロジー	中山書店	東京	2010	13-25

雑誌 (外国語)

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Asai M, <u>Akechi T</u> , <u>Shimizu K</u> , <u>Ogawa A</u> , <u>Uchitomi Y</u> , et al	Psychiatric disorders and stress factors experienced by staff members in cancer hospitals: a preliminary finding from psychiatric consultation service at National Cancer Center Hospitals in Japan	Palliat Support Care	8	291-295	2010
Ogawa A, <u>Shimizu K</u> , Uchitomi Y. et al	Involvement of a psychiatric consultation service in a palliative care team at the Japanese cancer center hospital.	Jpn J ClinOncol	40	1139- 1146	2010

Matsumoto Y, <u>Shimizu K</u> , Uchitomi Y. et al	Suicide associated with corticosteroid use during chemotherapy: case report.	Jpn J ClinOncol	40	174-176	2010
<u>Shimizu K</u> , Ogawa A, Uchitomi Y. et al	Feasibility and usefulness of the 'Distress Screening Program in Ambulatory Care' in clinical oncology practice.	Psychooncology	19	718-725	2010
Akechi T, <u>Shimizu K</u> , Uchitomi Y. et al	Gender differences in factors associated with suicidal ideation in major depression among cancer patients.	Psychooncology	19	384-389	2010
Asai M, <u>Uchitomi Y</u> , et al	Psychological states and coping strategies after bereavement among the spouses of cancer patients: a qualitative study	Psychooncology	19	38-45	2010
Ishida M, <u>Onishi H</u> , <u>Uchitomi Y</u> , et al	Psychiatric Disorders in Patients Who Lost Family Members to Cancer and Asked for Medical Help: Descriptive Analysis of Outpatient Services for Bereaved Families at Japanese Cancer Center Hospital	Jpn J Clin Oncol			2010
Ishida M, <u>Onishi H</u> , <u>Uchitomi Y</u> , et al	Bereavement dream? Successful antidepressant treatment for bereavement-related distressing dreams in patients with major depression	Palliat Support Care	8	95-98	2010
Kishimoto Y, <u>Uchitomi Y</u> , et al	Kana Pick-out Test and brain perfusion imaging in Alzheimer's disease	Int Psychogeriatr		1-8	2010
Nakaya N, <u>Uchitomi Y</u> , et al	Personality traits and cancer risk and survival based on Finnish and Swedish registry data	Am J Epidemiol	172	377-385	2010
Nakaya N, <u>Uchitomi Y</u> , et al	Increased risk of severe depression in male partners of women with breast cancer	Cancer	116	5527-5534	2010
<u>Akechi T</u> , et al	Anticipatory nausea among ambulatory cancer patients undergoing chemotherapy: Prevalence, associated factors, and impact on quality of life	Cancer Sci	101(12)	2596-2600	2010
<u>Akechi T</u> , et al	Delirium training program for nurses.	Psychosomatics	51(2)	106-111	2010
Uchida M, <u>Akechi T</u> , et al.	Patients' Supportive Care Needs and Psychological Distress in Advanced Breast Cancer Patients in Japan	Jpn J Clin Oncol			2010

Katsumata R, <u>Akechi T</u> , et al	A case with Hodgkin lymphoma and fronto-temporal lobular degeneration (FTLD)-like dementia facilitated by chemotherapy.	Jpn J Clin Oncol	40(4)	365-8	2010
Azuma H, <u>Akechi T</u> , et al	Paroxysmal nonkinesigenic dyskinesia with depression treated by bilateral electroconvulsive therapy.	J Neuropsychiatry Clin Neurosci	22(3)	352d e6-352 e6	2010
Ando M, <u>Morita T</u> , <u>Akechi T</u> , et al	Efficacy of short-term life-review interviews on the spiritual well-being of terminally ill cancer patients.	J Pain Symptom Manage	39(6)	993-1002	2010
Akazawa T, <u>Akechi T</u> , <u>Morita T</u> , et al	Self-perceived burden in terminally ill cancer patients: A categorization of care strategies based on bereaved family members' perspectives.	J Pain Symptom Manage	40	224-234	2010
Kinoshita Y, <u>Akechi T</u> , et al	Psychotic-like experiences are associated with violent behavior in adolescents.	Schizophr Res			in press
Ando M, <u>Morita T</u> , <u>Akechi T</u> , et al	Development of a Japanese Benefit Finding Scale (JBFS) for Patients With Cancer.	Am J Hosp Palliat Care			in press
Ando M, <u>Morita T</u> , <u>Akechi T</u> , et al	A qualitative study of mindfulness-based meditation therapy in Japanese cancer patients.	Support Care Cancer			in press
<u>Akechi T</u> , et al	Patient's perceived need and psychological distress and/or quality of life in ambulatory breast cancer patients in Japan.	Psychooncology			in press
Furukawa TA, <u>Akechi T</u> , et al	Relative indices of treatment effect may be constant across different definitions of response in schizophrenia trials	Schizophr Res			in press
Hachizuka M, <u>Yoshiuchi K</u> , et al	Development of a personal digital assistant (PDA) system to collect symptom information in home hospice patients. Journal of Palliative Medicine	Journal of Palliative Medicine	13	647-651	2010
Shinjo T, <u>Morita T</u> , et al	Care for the Bodies of Deceased Cancer Inpatients in Japanese Palliative Care Units.	J Palliat Med	13	27-31	2010
Shinjo T, <u>Morita T</u> , et al	Care for imminently dying cancer patients: family members' experiences and recommendations.	J Clin Oncol	28	142-148	2010

Okamoto T, <u>Morita T</u> , et al	Religious care required for Japanese terminally ill patients with cancer from the perspective of bereaved family members.	Am J Hosp Palliat Med	27	50-54	2010
Ando M, <u>Morita T</u> , et al	Factors that influence the efficacy of bereavement life review therapy for spiritual well-being: a qualitative analysis.	Support Care Cancer	19	309-314	2010
Nakazawa Y, <u>Morita T</u> , et al	The palliative care self-reported practices scale and the palliative care difficulties scale: reliability and validity of two scales evaluating self-reported practices and difficulties experienced in palliative care by health professionals.	J Palliat Med	13	427-437	2010
Hyodo I, <u>Morita T</u> , et al	Development of a predicting tool for survival of terminally ill cancer patients.	Jpn J Clin Oncol	40	442-448	2010
Ise Y, <u>Morita T</u> , et al	Role of the community pharmacy in palliative care: a nationwide survey in Japan.	J Palliat Med	13	733-737	2010
Ando M, <u>Morita T</u> , et al	Value of religious care for relief of psycho-existential suffering in Japanese terminally ill cancer patients: the perspective of bereaved family members.	Psychooncology	19	750-755	2010
Yamada R, <u>Morita T</u> , et al	Patient-reported usefulness of peripherally inserted central venous catheters in terminally ill cancer patients.	J Pain Symptom Manage	40	60-66	2010
Hisanaga T, <u>Morita T</u> , et al	Multicenter prospective study on efficacy and safety of octreotide for inoperable malignant bowel obstruction.	Jpn J Clin Oncol	40	739-745	2010
Igarashi A, <u>Morita T</u> , et al	Changes in medical and nursing care after admission to palliative care units: a potential method for improving regional palliative care.	Support Care Cancer	18	1107-1113	2010
Ando M, <u>Morita T</u> , et al	Effects of bereavement life review on spiritual well-being and depression.	J Pain Symptom Manage	40	453-459	2010
Ando M, <u>Morita T</u> , <u>Akechi T</u>	Factors in the short-term life review that affect spiritual well-being in terminally ill cancer patients.	J Hosp Palliat Nurs	12	305-311	2010

Choi J, <u>Morita T</u> , et al	Preference of place for end-of-life cancer care and death among bereaved Japanese families who experienced home hospice care and death of a loved one.	Support Care Cancer	18	1445-1453	2010
Yamagishi A, <u>Morita T</u> , et al	The care strategy for families of terminally ill cancer patients who become unable to take nourishment orally: Recommendations from a nationwide survey of bereaved family members' experiences.	J Pain Symptom Manage	40	671-683	2010
Yoshida S, <u>Morita T</u> , et al	Experience of families of Japanese patients with cancer for prognostic disclosure.	J Pain Symptom Manage	Dec 9	[Epub ahead of print]	2010

雑誌（日本語）

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
清水 研	がん患者の精神症状とそのスクリーニング	臨床精神薬理	13	1287-1294	2010
清水 研	サバイバーとサバイバーシップ	腫瘍内科	5	95-99	2010
高橋真由美、藤澤大介、小川朝生、内富庸介	緩和ケア領域におけるうつ病	総合臨床	59	1224-1230	2010
大谷恭平、山田祐、小川朝生、内富庸介	サバイバーにおける認知機能障害	腫瘍内科	5	202-210	2010
内富庸介	精神腫瘍学概論	岡山医学会雑誌	122	119-124	2010
内富庸介、藤森麻衣子	がん患者の心理的反応に配慮したコミュニケーション	日本整形外科学会雑誌	84	331-337	2010
白井由紀、 <u>小川朝生</u> 、 <u>内富庸介</u> 、他	がん治療中の患者の精神症状	エビデンスにもとづいた OncologyNursing	総集編	163-167	2010
森田達也、 <u>内富庸介</u> 、他	がん患者が望む「スピリチュアルケア」89名のインタビュー調査.	精神医学	52	1057-1072	2010
吉内一造.	サイコオンコロジーをめぐる政策および専門医制度の現状	日本心療内科学会誌	14	214-218	2010
吉内一造.	サイコオンコロジー	癌と化学療法	37	1860-1863	2010
吉内一造.	緩和ケアにおけるうつ病	Mebio	27	94-100	2010
松本禎久、他	サバイバーの身体的な問題	腫瘍内科	5	112-115	2010

松本禎久, 他	オピオイドローテーション	Mebio	27	89-97	2010
渡辺啓太郎, 松本禎久, 他	症状緩和目的でMohs pasteを使用し, QOLが改善した食道癌皮膚転移の1例	臨床外科	65	1169-1172	2010
荻野和功, 森田達也	がん医療はどう変わったのか「がん対策基本法」施行から2年半. 浜松地域のリーダーとして現場のニーズを常に念頭に入れがんになっても安心な環境づくりに取り組む.	medi. magazine	冬号 通巻04号	20-24	2010
井村千鶴, 森田達也, 他	浜松市のがん患者に対するケアマネジメントの実態調査.	緩和ケア	20	92-98	2010
森田達也	シリーズ「がん」 緩和ケア、普通の暮らしを願って.	朝日新聞社		http://www.asahi.com/health/essay/TKY201001280383.html	2010
森田達也, 他	特集 進歩するがん診療 鼎談②緩和ケアの最前線.	日本医事新報	4475	45-55	2010
森田達也, 他	末期がんだけではない「緩和ケア」は、ここまで進化した.	ナーシングカレッジ	14	44-50	2010
吉田沙蘭, 森田達也, 他	難治性小児がん患者の家族が経験する困難の探索.	小児がん	47	91-97	2010
森田達也	緩和医療 緩和ケアチームと緩和ケア病棟.	臨床麻酔	34 (臨時増刊号)	431-443	2010
井村千鶴, 森田達也, 他	地域における緩和ケアの連携を促進する取り組み—フォーカスグループの有用性.	緩和ケア	20	204-209	2010
井村千鶴, 森田達也, 他	地域における緩和ケアの連携を促進する取り組み—フォーカスグループの有用性 ²⁾ .	緩和ケア	20	308-312	2010
井村千鶴, 森田達也, 他	緩和ケアチームによる診療所へのアウトリーチプログラムの有用性.	癌と化学療法	37	863-870	2010
森田達也	末期肺癌の緩和ケア (Q&A)	日本医事新報	4497	79-80	2010
森田達也	経験したことを伝えていこう 研究論文の書き方 第1回 論文を書く、その前に—原著論文の査読システムを知る—.	緩和ケア	20	379-383	2010
井村千鶴, 森田達也, 他	地域における緩和ケアの連携を促進する取り組み—フォーカスグループの有用性 ³⁾ .	緩和ケア	20	417-422	2010
森田達也	がん性疼痛治療 がん性疼痛ガイドラインの作成.	Mebio	27	24-28	2010

森田達也	経験したことを伝えていこう 研究論文の書き方 第2回 「はじめに」を書く.	緩和ケア	20	513-516	2010
森田達也	在宅の視点をもった緩和ケアチーム.	地域緩和ケアリンク	10	2	2010
小田切拓也, 森田達也	そこが知りたい! 緩和ケアにおける服薬指導 第I部緩和ケアにおいて服薬指導に何が求められるか.	緩和ケア	20 (10月増刊号)	2-5	2010
伊藤富士江, 森田達也, 他	がん在宅緩和医療の課題と解決策に関する診療所医師を対象とした訪問調査.	緩和ケア	20	641-647	2010
余宮きのみ, 森田達也	がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン2010年版を読み解く オピオイド鎮痛薬を中心に.	ペインクリニック	31	1477-1483	2010
森田達也	経験したことを伝えて行こう 研究論文の書き方 第3回「対象・方法」を書く.	緩和ケア	20	605-610	2010
新城拓也, 森田達也, 他	主治医による死亡確認や臨終の立ち会いが, 家族の心理に及ぼす影響についての調査研究.	Palliat Car Res	5	162-170	2010
赤澤輝和, 森田達也, 他	緩和ケアについての市民・患者対象の啓発介入の実態調査.	Palliat Car Res	5	171-174	2010
小川朝生	精神科医への期待 いま進められている事業から	精神神経学雑誌	112	1010-1017	2010
小川朝生	在宅ケア各論 第5回	温	5	13-15	2010
小川朝生	【がんの告知と看護師の役割 看護師のコミュニケーション技術】医療者間のコミュニケーション	がん看護	15	50-52	2010
白井由紀, 小川朝生	がんチーム医療におけるコミュニケーション・スキル	Oncology Nursing	1	22-25	2010

